

甲子園 髪形自由校多く

球児=丸刈り 伝統に変化

兵庫県西宮市の甲子園球場で開催されている全国高校野球選手権大会は19日に準々決勝が行われる。勝ち残った8校のうち花巻東（岩手）土浦日大（茨城）慶応（神奈川）は選手が丸刈りではない。敗退した複数の学校も同様で、一律的だった球児のヘアスタイル事情が変わりつつある。

米大リーグで活躍する大谷翔平らが集立った花巻東は5年前に丸刈りのルールを廃止。当時、研修で渡米した佐々木洋監督は「外から日本を見て、伝統と習慣をやっているのが気付いた。なぜ丸刈りにするのか。目的を考えてやめた」という。戦後間もない頃から自由な髪型が求められる。慶応の森田貴彦監督も「逆に丸刈りなのか」とその目的や効果に疑問の目を向けた。

日本高校野球連盟によると2014年に17万人を超えた硬式野球部員数は、現在13万人未満と10年弱で約25%も減った。少子化もあるが、高野連関係者は「丸刈り頭が何かを強制する印象を与えているかも」と野球離れの一因として危惧する。

土浦日大は16年に就任した小菅監督が「学校スポーツの管理体制を緩めよう、選手ファーストで、という時代」と方針転換。プレーへの影響や周囲の評判も考え、「おでこは3分の2を出す。帽子をかぶって前髪が出ているのは見苦しい」と決めた。

目的、効果に疑問 ■ 野球離れ危惧も

練習試合のほか、冬場はオンラインで選手同士がつながり練習方法や各学年ならではの悩みを共有し合ったという。原田監督は「同じ志を持った仲間が活躍しているのはうれし。少年野球チームは甲子園で活躍した高校をまねする。これまでの『サ高校野球』では競技人口が減ってしまつと感じている」と話した。

青森市内のある高校の野球部でも18年から丸刈りの統一を廃止。その頃から全国的に丸刈りでそろえない高校が増え始めていたことから、同校内で話し合い決めたという。同校の監督は「髪形で試合結果が左右されるものでもないし、関連付ける必要はないのでは」と話す。

一方、甲子園8強の八戸学院光星は149人の野球部員全員が丸刈り。同部の小坂貴志部長は「部の規則ではない」とした上で「髪を伸ばすと、定期的に散髪に通わなければならないため、時間とお金がかかってしまつ」と説明。また、八戸市にある同部の寮の近くに理容院がないといった周辺環境も理由に挙げながら「部員たちは昔から寮内でバリカンを使い丸刈りにしている。昔からの伝統が今も続いている」と話した。